

中小企業動向調査

この調査は富山県内企業448社を対象に実施し、274社より回答があり、その結果をまとめたものである。

企業の調査資料として、平成27年4月～6月の実績、平成27年7月～9月の見込み、平成27年10月～12月の先行き見通しを集約した概要である。なお、季節調整は行っていない。

調査時期：平成27年6月下旬

	調査対象企業数	有効回答企業数	有効回答率
製 造 業	188	111	59.0%
非 製 造 業	260	163	62.7%
計	448	274	61.2%

日銀が7月16日に公表した、北陸の金融経済月報（2015年7月）によると、「北陸の景気は、回復している。企業の景況感も北陸新幹線開業効果等から高水準で推移している。

最終需要をみると、個人消費は持ち直している。設備投資は一段と増加しており、住宅投資は持ち直しつつある。公共投資は減少傾向にある。

当地製造業の生産は高水準で推移している。業種別に見ると、化学、電子部品・デバイス、はん用・生産用・業務用機械は横ばい圏内で推移している。繊維は弱含んでいる。金属製品は減少している。

雇用・所得環境は着実に改善している。

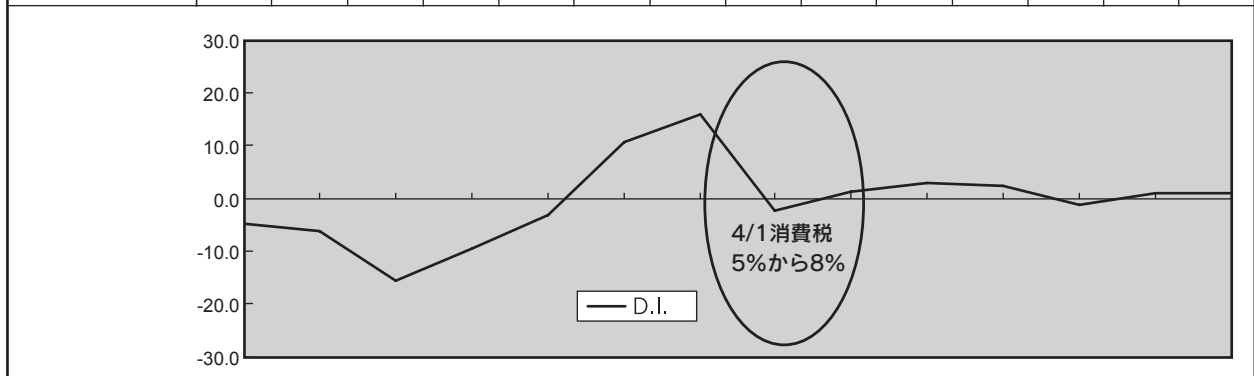
物価は前年比0%程度となっている。

先行きについては、回復を続けていくとみられる。」としている。

I. 企業概況

企業概況の推移……（全産業）

期別 種別	企業概況の推移……（全産業） (%)													
	24 年		25 年				26 年				27 年			
	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月
良 い	14.7	15.7	10.4	14.2	13.7	24.3	26.7	15.5	17.5	17.0	19.4	16.2	11.4	10.3
普 通	65.8	62.5	63.7	62.2	69.6	62.0	62.6	66.5	66.1	68.9	63.5	66.5	78.3	80.6
悪 い	19.5	21.8	25.9	23.6	16.7	13.8	10.7	17.9	16.3	14.1	17.1	17.3	10.3	9.2
D . I .	-4.8	-6.1	-15.5	-9.4	-3.1	10.5	16.0	-2.4	1.2	2.9	2.3	-1.1	1.1	1.1

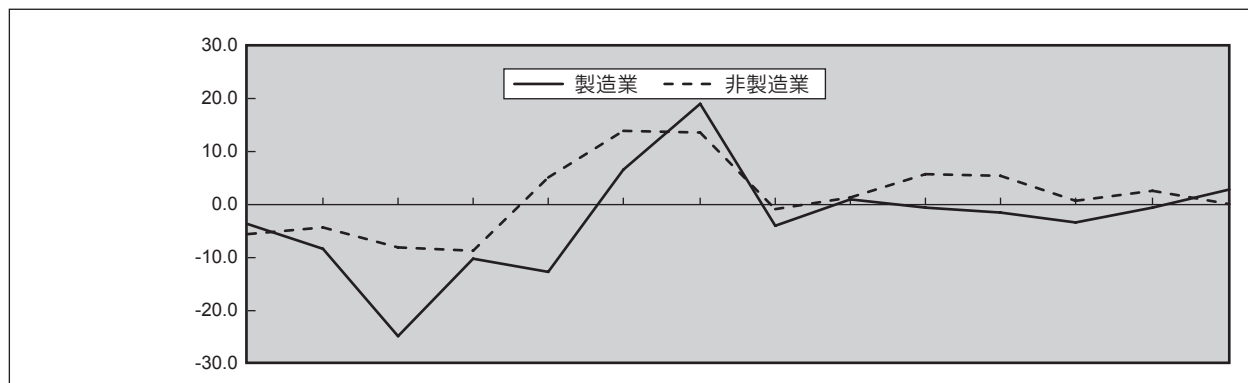


企業概況の推移……（うち製造業のみ）

期別 種別		24 年		25 年				26 年				27 年			
		7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月
良	い	15.3	13.6	6.2	16.8	10.5	21.6	28.9	17.6	19.4	15.3	18.8	16.5	11.9	12.7
普	通	65.6	64.4	62.8	56.0	66.2	63.2	61.2	60.5	62.0	68.5	60.7	63.3	75.2	77.3
悪	い	19.1	22.0	31.0	27.2	23.3	15.2	9.9	21.8	18.5	16.2	20.5	20.2	12.8	10.0
D . I .		-3.8	-8.5	-24.8	-10.4	-12.8	6.4	19.0	-4.2	0.9	-0.9	-1.8	-3.7	-0.9	2.7

企業概況の推移……（うち非製造業のみ）

期別 種別		24 年		25 年				26 年				27 年			
		7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月
良	い	14.3	17.5	13.7	12.0	16.3	26.5	24.8	13.6	16.1	18.2	19.9	16.0	11.0	8.6
普	通	65.8	60.8	64.4	67.3	72.5	60.9	63.8	72.0	69.1	69.2	65.6	68.7	80.4	82.8
悪	い	19.9	21.7	21.9	20.7	11.3	12.6	11.3	14.4	14.8	12.6	14.6	15.3	8.6	8.6
D . I .		-5.6	-4.2	-8.2	-8.7	5.0	13.9	13.5	-0.8	1.3	5.7	5.3	0.6	2.5	0.0



- (1) 富山県内の中小企業の業況を全産業で見ると、業況判断指数D.I.「良い－悪い」の27年4～6月期実績は▲1.1と前期比3.4ポイント悪化した。

先行きについて、27年7～9月期のD.I.は1.0、27年10～12月期のD.I.は1.1と改善する予想となっている。

前回調査の予想どおり、マイナスポイントまで悪化となったが、悪化ポイントは予想より低い回答となった。

- (2) 業況判断指数D.I.の27年4～6月期を製造業と非製造業に分けてみると、製造業は前期より1.9ポイント悪化、非製造業は前期より4.7ポイント悪化となり、非製造業ではプラスポイントではあるが、悪化幅が多くなっている。

先行きについては、製造業は改善予想であるが、非製造業は悪化を予想している。

II. 売上高状況

売上高状況

(%) 見込 予測

種別 \ 期別	24 年		25 年				26 年				27 年			
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
増加	26.3	28.4	22.3	30.6	32.3	43.1	53.0	29.9	31.4	30.0	28.3	28.2	25.3	22.8
横ばい	46.4	44.7	45.2	42.1	45.9	39.9	33.2	43.4	43.3	43.1	41.5	45.1	59.0	65.4
減少	27.3	26.9	32.6	27.4	21.7	17.5	13.8	26.7	25.3	27.0	30.2	26.8	15.8	11.7
D. I.	-1.0	1.5	-10.3	3.2	10.5	28.6	39.3	3.2	6.1	2.9	-1.9	1.5	9.5	11.0

売上高状況 (うち製造業のみ)

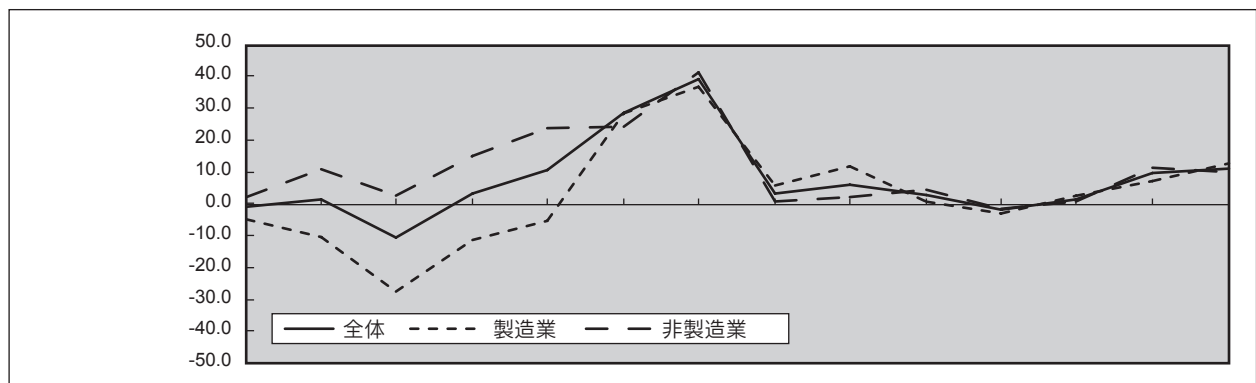
(%) 見込 予測

種別 \ 期別	24 年		25 年				26 年				27 年			
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
増加	24.4	24.5	12.3	22.8	25.3	46.0	53.3	32.2	35.2	29.2	31.3	31.5	24.3	22.7
横ばい	46.6	40.7	48.2	43.3	44.0	36.5	30.3	41.5	41.7	42.5	34.8	39.6	58.6	67.3
減少	29.0	34.8	39.5	33.8	30.6	17.5	16.4	26.3	23.1	28.3	34.0	28.8	17.1	10.0
D. I.	-4.6	-10.2	-27.2	-11.0	-5.2	28.6	36.9	5.9	12.0	0.9	-2.7	2.7	7.2	12.7

売上高状況 (うち非製造業のみ)

(%) 見込 予測

種別 \ 期別	24 年		25 年				26 年				27 年			
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
増加	27.8	31.5	30.0	37.1	38.2	40.8	52.9	27.8	28.7	30.5	26.2	26.0	25.9	22.9
横ばい	46.3	47.9	42.9	41.1	47.5	42.8	35.7	45.1	44.4	43.5	46.4	48.8	59.3	64.2
減少	25.9	20.6	27.2	21.8	14.4	16.4	11.4	27.1	26.8	26.1	27.4	25.3	14.9	13.0
D. I.	1.9	11.0	2.7	15.2	23.8	24.3	41.4	0.8	2.0	4.3	-1.3	0.6	11.1	9.9



(1) 売上高は、前年同期比較での増減について回答を受けている項目である。今回調査の、4~6月D.I.は、前期より3.4ポイント改善の回答となった。前年は、消費税の駆け込み需要の反動から、売上が減少していたことが、影響していると思われる。

先行きについてのD.I.は、改善していく予想となっている。

(2) 売上高状況D.I.を製造業と非製造業に分けても、どちらも改善している。先行きについて、製造業・非製造業とも7~9月期は改善するが、非製造業では10~12月にはやや悪化予想となっている。

Ⅲ. 生産高・稼働率状況

生産高状況（製造業のみ）

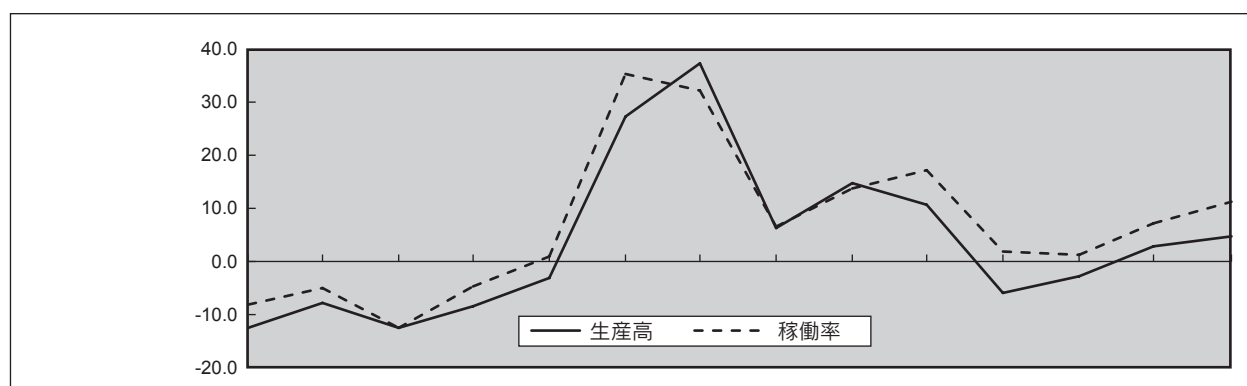
(%) 見込 予測

期別 種別	24 年		25 年				26 年				27 年			
	7~ 9月	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	7~ 9月	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	7~ 9月	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	7~ 9月	10~ 12月
20%以上増加	4.7	5.1	0.9	5.5	3.9	7.4	13.6	3.5	5.7	1.8	4.2	5.7	3.8	3.8
20%未満増加	17.2	20.5	19.6	17.2	19.5	33.1	38.1	27.8	27.9	29.2	24.6	21.9	19.0	14.4
横ばい状況	43.8	41.0	46.4	46.1	50.0	46.3	33.9	43.5	47.5	48.7	36.4	41.9	57.1	68.3
20%未満減少	28.1	29.1	24.1	21.9	24.2	11.6	13.6	23.5	17.2	17.7	28.0	27.6	17.1	12.5
20%以上減少	6.3	4.3	8.9	9.4	2.3	1.7	0.8	1.7	1.6	2.7	6.8	2.8	2.9	1.0
D . I .	-12.5	-7.7	-12.5	-8.6	-3.1	27.3	37.3	6.1	14.8	10.6	-5.9	-2.9	2.9	4.8

稼働率（製造業のみ）

(%) 見込 予測

期別 種別	24 年		25 年				26 年				27 年			
	7~ 9月	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	7~ 9月	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	7~ 9月	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	7~ 9月	10~ 12月
上昇	5.7	6.1	0.9	4.7	4.0	8.6	12.9	3.6	5.1	3.8	3.6	5.1	2.0	2.0
やや上昇	13.9	10.2	17.9	16.5	20.0	33.6	33.6	25.0	26.5	29.2	25.2	21.2	22.8	19.0
横ばい	52.5	42.1	50.0	52.8	52.8	50.9	38.8	49.1	50.4	50.9	44.1	48.5	57.4	69.0
やや下降	22.1	27.2	23.2	15.7	20.0	5.2	14.7	20.5	17.1	13.2	21.6	24.2	16.8	10.0
下降	5.7	4.4	8.0	10.2	3.2	1.7	0.0	1.8	0.9	2.8	5.4	1.0	1.1	0.0
D . I .	-8.2	-5.3	-12.5	-4.7	0.8	35.3	31.9	6.3	13.7	17.0	1.8	1.0	6.9	11.0



(1) 生産高・稼働率ともに売上高と同様、前年同期比での増減について回答を受けている項目である。

製造業の生産高状況D.I.は▲2.9となり、前期比3.0ポイント改善した。先行きについては、売上高と同様に、改善予想となっている。

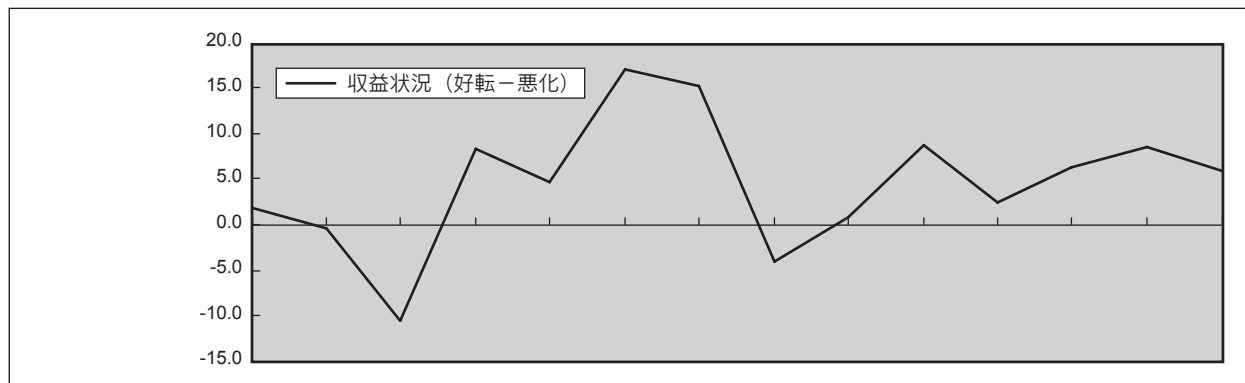
(2) 稼働率については、今回調査では、前期より悪化したとの回答であった。

先行きについては、売上高、生産高同様に改善予想となっている。

IV. 収益状況

収益状況（好転－悪化）

期別 種別	24年		25年				26年				27年			
	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月
好転	19.7	20.8	15.8	25.2	19.3	28.5	29.9	14.6	20.8	23.8	23.2	23.2	17.6	14.3
横ばい	62.2	58.1	57.9	57.9	66.1	60.1	55.3	66.8	59.2	61.0	55.9	59.9	73.2	77.2
悪化	18.0	21.1	26.3	16.9	14.6	11.4	14.8	18.6	20.0	15.2	20.9	16.9	9.2	8.5
D.I.	1.7	-0.4	-10.5	8.3	4.7	17.1	15.2	-4.0	0.8	8.7	2.3	6.3	8.5	5.9



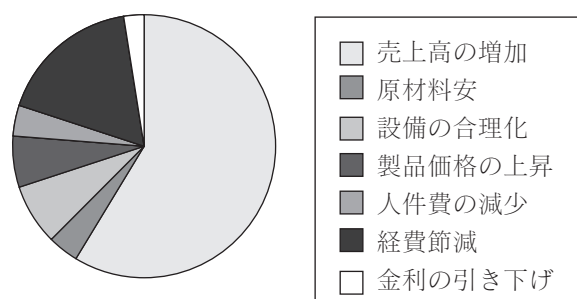
好転理由

期別 種別	24年		25年				26年				27年			
	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月
売上高の増加	64.4	70.8	61.8	64.5	72.5	82.1	83.0	68.6	74.0	69.8	70.3	58.8	67.2	61.7
原材料安	4.1	4.6	1.8	4.3	0.0	1.1	0.0	3.9	1.3	4.7	2.7	3.8	7.8	6.7
設備の合理化	1.4	3.1	1.8	3.2	4.3	3.2	2.3	5.9	3.9	5.8	6.8	7.5	4.7	6.7
製品価格の上昇	2.7	3.1	5.5	4.3	5.8	2.1	0.0	9.8	9.1	4.7	1.4	6.3	7.8	6.7
人件費の減少	6.8	0.0	7.3	4.3	4.3	4.2	2.3	2.0	2.6	4.7	4.1	3.8	1.6	3.3
経費節減	19.2	16.9	18.2	18.3	13.0	7.4	11.4	5.9	9.1	9.3	10.8	17.5	7.8	13.3
金利の引き下げ	1.4	1.5	3.6	1.1	0.0	0.0	1.1	3.9	0.0	1.2	4.1	2.5	3.1	1.7

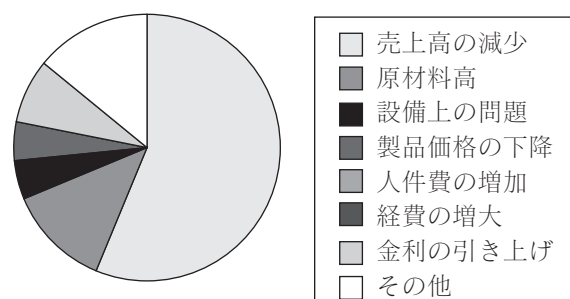
悪化理由

期別 種別	24年		25年				26年				27年			
	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月
売上高の減少	56.8	51.3	66.3	62.5	48.4	53.5	55.4	51.4	51.4	52.5	58.8	56.3	56.8	45.9
原材料高	13.5	10.3	10.8	12.5	19.4	20.9	10.7	18.6	24.3	16.9	8.8	12.5	16.2	16.2
設備上の問題	1.4	3.8	1.2	0.0	6.5	0.0	0.0	1.4	1.4	3.4	4.4	4.7	5.4	5.4
製品価格の下降	14.9	11.5	4.8	7.8	4.8	7.0	8.9	5.7	4.3	8.5	4.4	4.7	2.7	8.1
経費の増大	9.5	12.8	9.6	9.4	6.5	14.0	14.3	11.4	11.4	5.1	17.6	7.8	13.5	16.2
人件費の増加	2.7	2.6	2.4	3.1	8.1	0.0	3.6	8.6	4.3	6.8	0.0	0.0	0.0	0.0
金利の引き上げ	1.4	0.0	0.0	1.6	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	1.7	1.5	0.0	0.0	2.7
その他	0.0	7.7	4.8	3.1	4.8	4.7	7.1	2.9	2.9	5.1	4.4	14.1	5.4	5.4

好転理由



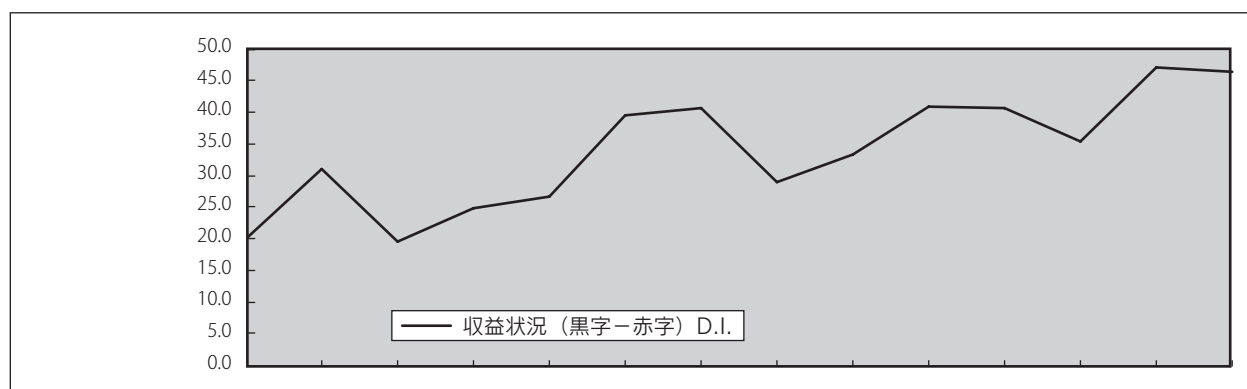
悪化理由



- (1) 収益状況「好転－悪化」D.I.は、前期比4.0ポイント改善し、6.3となった。
 先行きの7～9月期は更に改善見込みとなっているが、10～12月期ではやや悪化予想となっている。
- (2) 今期収益が好転した理由は、「売上高の増加」が58.8%で最も多くなり、次に「経費節減」が17.5%となった。
 前回調査時より、「製品価格の上昇」「経費節減」を理由ポイントが増加している。
 「経費節減」「金利の引下げ」とするポイントは減少となった。
- (3) 収益が悪化した理由では、「売上高の減少」とするポイントが56.3%と最も高いポイントとなった。
 前回調査時に比べ、「原材料高」を理由とするポイントが増加し、「経費の増大」とするポイントは減少となった。

収益状況（黒字－償却後赤字）

種別	期別														見込		予測
	24年		25年				26年				27年				見込	予測	
	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月			
黒字	39.1	46.7	39.0	44.3	42.5	53.8	53.5	45.1	49.4	52.8	52.7	50.6	46.9	52.8			
収支トントン	41.9	37.7	41.7	36.3	41.8	31.8	33.7	38.6	34.5	35.1	35.2	34.2	42.5	40.8			
償却後赤字	19.0	15.6	19.3	19.4	15.8	14.4	12.8	16.3	16.1	12.1	12.1	15.2	10.6	6.4			
D . I .	20.1	31.1	19.7	24.9	26.7	39.4	40.7	28.9	33.3	40.8	40.6	35.3	36.2	46.4			



- (4) 収益状況「黒字－償却後赤字」D.I.は35.3となり、前期比やや悪化となった。
 収益状況は、「黒字」との回答が半数以上であり、安定推移となっている。
 先行きについても、改善予想であり、赤字となる回答は減少予想である。

V. 製品在庫水準

製品在庫水準

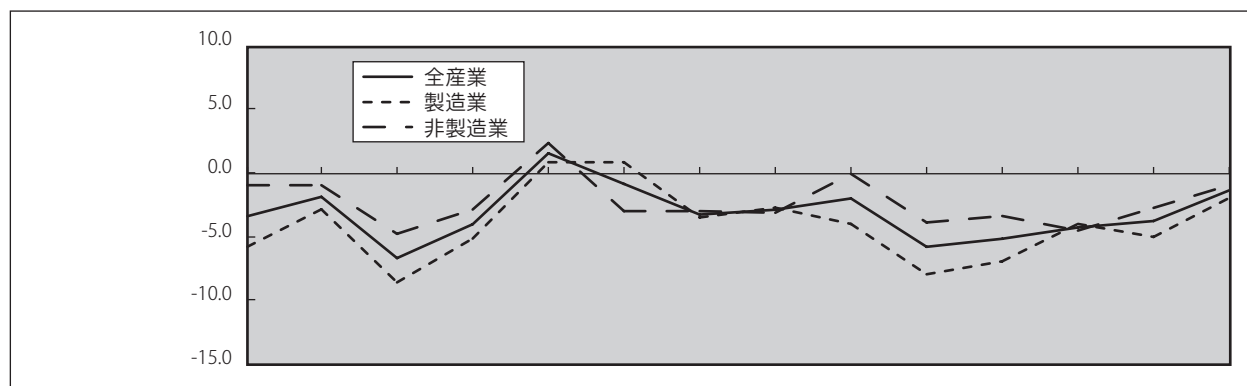
		製品在庫水準 (%)												見込	予測	
期別 種別	24年		25年				26年				27年					
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月		
不足	2.5	2.9	0.9	3.6	5.2	4.6	3.2	2.9	4.4	1.5	2.6	2.3	1.4	0.9		
適正	91.5	92.3	91.5	88.8	91.3	89.9	90.3	91.3	89.2	91.3	89.7	91.1	93.4	96.7		
過剰	5.9	4.8	7.5	7.6	3.6	5.5	6.5	5.8	6.4	7.3	7.7	6.5	5.2	2.3		
D.I.	-3.4	-1.9	-6.6	-4.0	1.6	-0.9	-3.2	-2.9	-2.0	-5.8	-5.2	-4.2	-3.8	-1.4		

製品在庫水準 (うち製造業のみ)

		製品在庫水準 (%)												見込	予測	
期別 種別	24年		25年				26年				27年					
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月		
不足	1.6	2.8	1.9	5.1	6.3	5.2	3.5	4.5	5.0	2.0	3.9	3.9	2.0	1.9		
適正	91.0	91.7	87.7	84.7	88.3	90.4	89.4	88.4	86.0	88.2	85.3	88.3	91.2	94.2		
過剰	7.4	5.5	10.4	10.2	5.5	4.3	7.1	7.1	9.0	9.8	10.8	7.8	6.9	3.9		
D.I.	-5.7	-2.8	-8.5	-5.1	0.8	0.9	-3.5	-2.7	-4.0	-7.8	-6.9	-3.9	-4.9	-1.9		

製品在庫水準 (うち非製造業のみ)

		製品在庫水準 (%)												見込	予測	
期別 種別	24年		25年				26年				27年					
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月		
不足	3.5	3.0	0.0	1.9	4.0	3.9	2.9	1.0	3.9	1.0	1.1	0.9	0.9	0.0		
適正	92.1	93.0	95.3	93.4	94.4	89.2	91.3	94.8	92.2	94.2	94.6	93.7	95.5	99.1		
過剰	4.4	4.0	4.7	4.7	1.6	6.9	5.8	4.2	3.9	4.8	4.3	5.4	3.6	0.9		
D.I.	-0.9	-1.0	-4.7	-2.8	2.4	-2.9	-2.9	-3.1	0.0	-3.8	-3.3	-4.5	-2.7	-0.9		



(1) 全産業の製品在庫水準「不足－過剰」D.I.は、27年4～6月期は▲4.2となり、前期比1.0ポイント改善となったが、在庫は過剰との回答が高い回答となっている。

先行きについては、改善予想であり、まだ、過剰との回答も減少予想となっている。

(2) 業種別では、製造業・非製造業とも過剰との回答が高いが、製造業は前期比やや改善となった。非製造業は反対に悪化の回答であった。

先行きについては、どの業種も改善予想となっている。

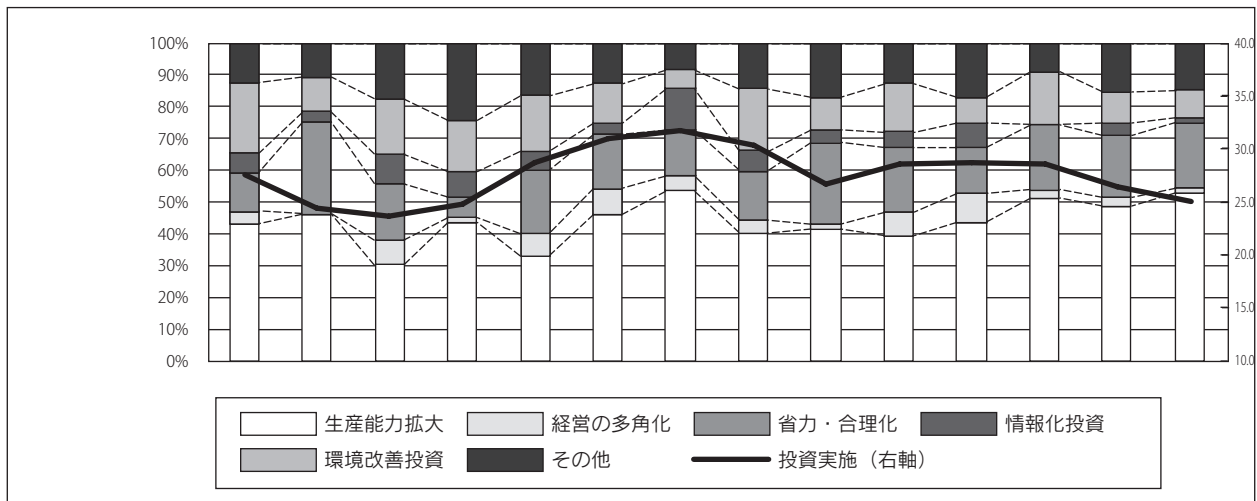
VI. 設備投資動向

設備投資の有無

		(%)												見込	予測	
期別 種別	24年		25年				26年				27年					
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月		
投資実施	27.6	24.4	23.7	24.7	28.7	31.0	30.3	31.8	26.7	28.5	28.7	28.5	26.4	25.0		
投資せず	72.4	75.6	76.3	75.3	71.3	69.0	69.7	68.2	73.3	71.5	71.3	71.5	73.6	75.0		

設備投資の目的（実施先について）

	(%)													
生産能力拡大	43.2	46.2	30.2	39.1	32.9	46.0	53.6	40.3	41.4	39.2	43.4	51.3	48.6	52.9
経営の多角化	3.7	0.0	7.9	1.4	7.1	8.0	4.8	3.9	1.4	7.6	9.2	2.6	2.8	1.5
省力・合理化	12.3	29.2	17.5	5.9	20.0	17.2	14.3	15.6	25.7	20.3	14.5	20.5	19.4	20.6
情報化投資	6.2	3.1	9.5	7.2	5.9	3.4	13.1	6.5	4.3	5.1	7.9	0.0	4.2	1.5
環境改善投資	22.2	10.8	17.5	14.5	17.6	12.6	6.0	19.5	10.0	15.2	7.9	16.7	9.7	8.8
その他	12.3	10.8	17.5	21.7	16.5	12.6	8.3	14.3	17.1	12.7	17.1	9.0	15.3	14.7



(1) 今回調査では、設備投資を実施した企業は全回答先の28.5%と、前回調査時のほぼ同じポイントであった。先行きについても、同様の比率で投資する予想となっている。

設備投資の目的別では、「生産能力拡大」とするポイントが最も高く、次に「省力合理化」、「環境改善投資」の順となっている。

「経営の多角化」「情報化投資」を目的とするポイントは減少となった。

(2) 業種別で、設備投資をしたとするポイントの高いのは、製造業では「木材業」「電子部品製造」であった。

非製造業では、「宿泊業」「自動車販売」が高いポイントであった。

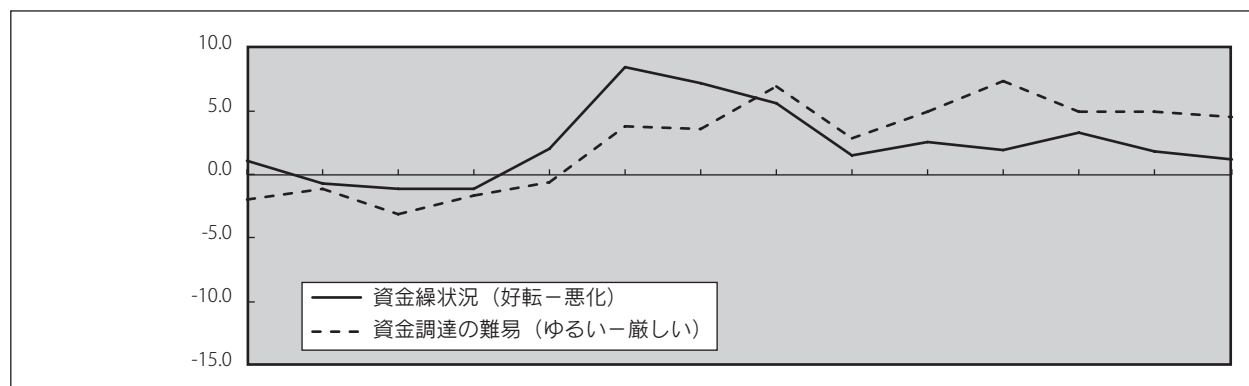
先行きについては、「電子部品製造業」「自動車販売」が設備投資を行う予定としてポイントが高い。

VII. 資金繰り状況

資金繰り状況（好転－悪化）

(%) 見込 予測

期別 種別	24 年		25 年				26 年				27 年			
	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月
好 転	10.9	9.5	8.6	10.1	8.8	13.9	14.1	10.4	10.0	7.9	9.5	12.4	7.7	7.0
変わらず	79.3	80.3	81.6	78.8	84.4	80.8	79.1	84.9	81.6	86.6	83.0	78.5	86.4	87.2
悪 化	9.9	10.2	9.8	11.2	6.8	5.3	6.8	4.8	8.4	5.4	7.6	9.1	5.9	5.9
D . I .	1.0	-0.8	-1.1	-1.1	2.0	8.5	7.2	5.6	1.5	2.5	1.9	3.3	1.8	1.1



資金調達の難易（ゆるい－厳しい）

(%) 見込 予測

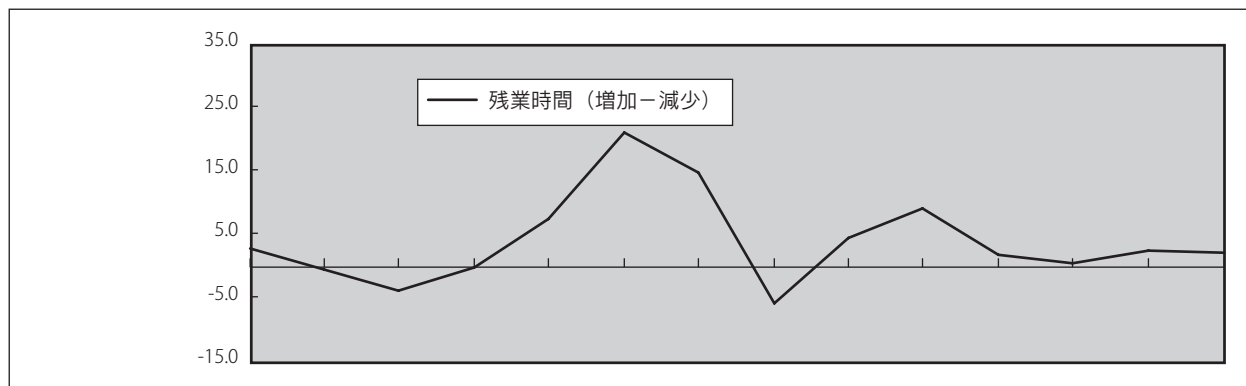
期別 種別	24 年		25 年				26 年				27 年			
	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月
ゆるい	10.8	11.3	11.7	11.4	11.1	14.8	14.3	14.6	11.2	13.1	13.6	13.2	12.8	12.7
厳しくない	76.3	76.3	73.4	75.3	77.1	74.2	74.8	77.7	80.3	78.7	80.2	78.5	79.3	79.1
厳しい	12.9	12.5	14.8	13.3	11.8	11.1	10.9	7.7	8.4	8.2	6.2	8.3	7.9	8.2
D . I .	-2.1	-1.2	-3.1	-1.8	-0.7	3.7	3.5	6.9	2.8	4.9	7.4	4.9	4.9	4.5

- 資金繰り状況D.I.「好転－悪化」実績は3.3となり、前期比1.4ポイント改善となった。
資金繰り状況のポイントは、26年7～9月期より低いポイントが続いていたが、前期比やや改善となった。
先行きについては、また、悪化予想となっている。
- 資金調達の難易D.I.は、4.9となり、前期比悪化となり、厳しい状況になっている。
前期は改善していたが、再び悪化となり、先行きについても同じ予想となっている。
業種別では、製造業の「繊維」「窯業土石」「出版印刷紙加工」が厳しいとのポイントが高く、非製造業では、「宿泊業」のポイントが高くなっている。

VIII. 労務事情

残業時間

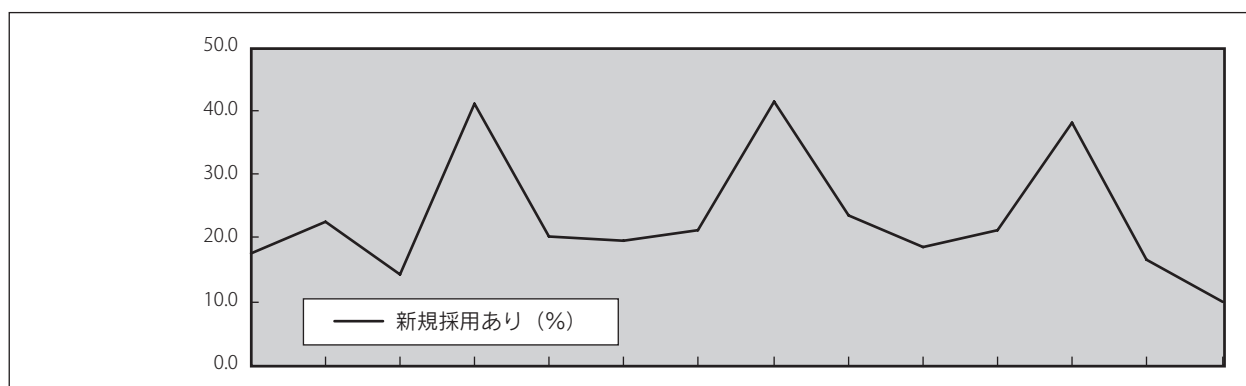
		(%)												見込	予測
種別	期別	24年		25年				26年				27年			
		7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
増加		13.3	12.7	12.0	13.3	15.4	26.3	23.6	8.8	13.1	17.5	13.9	11.5	9.8	9.9
横ばい		76.0	73.7	71.8	73.0	76.6	68.6	67.5	76.8	78.1	74.1	73.9	77.5	82.8	82.3
減少		10.6	13.6	16.2	13.7	8.1	5.1	8.9	14.5	8.9	8.4	12.2	11.1	7.4	7.8
D.I.		2.7	-0.8	-4.1	-0.4	7.3	21.2	14.6	-5.7	4.2	9.1	1.7	0.4	2.5	2.1



- (1) 残業時間D.I.は27年4~6月期0.4となり、前期比1.3ポイント減少した。
 残業時間は、減少となってきている。
 先行きについても、減少予想となっている。

新規採用実績(採用あり：%) ※常用・臨時合算

		(%)												見込	予測
種別	期別	24年		25年				26年				27年			
		7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
全産業		17.7	22.6	14.3	40.9	20.3	19.6	21.2	41.5	23.4	18.5	21.2	38.0	16.7	10.0
(うち製造業)		17.6	16.1	13.6	40.2	20.0	18.1	23.8	45.5	25.9	23.7	20.7	40.9	14.7	6.4
(うち非製造業)		17.8	27.9	14.9	41.4	20.5	20.9	19.0	37.9	21.6	14.8	21.6	36.0	18.1	12.5

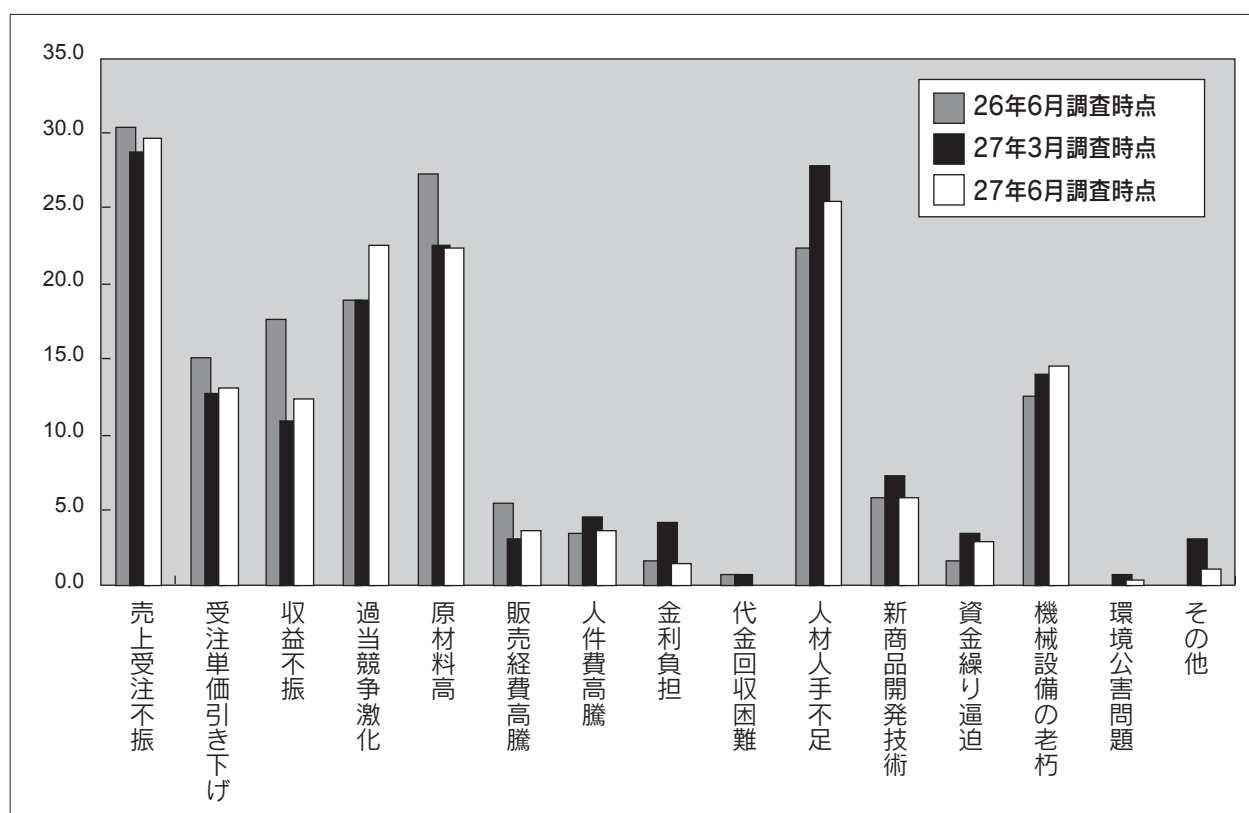


- (2) 新規採用集計は、常用雇用・臨時雇用合算で集計している。集計を見ると、前年同期に比べ、やや減少となっている。業種別では、製造業の減少ポイントが大きかった。
 先行きについても、採用ポイントは前年同期に比べ採用企業比率は減少している。

IX. 当面の経営上の問題点

(%：複数回答あり)

	26年6月 (前年同期)	27年3月 (前回)	27年6月 (今回)	27年6月		前回は増減
				(うち製造業)	(うち非製造業)	
売上受注不振	30.3	28.7	29.6	(30.6)	(28.8)	0.9
受注単価引き下げ	15.0	12.8	13.1	(18.9)	(9.2)	0.3
収益不振	17.7	10.9	12.4	(13.5)	(11.7)	1.5
過当競争激化	18.9	18.9	22.6	(14.4)	(28.2)	3.7
原材料高	27.2	22.6	22.3	(28.8)	(17.8)	-0.3
販売経費高騰	5.5	3.0	3.6	(3.6)	(3.7)	0.6
人件費高騰	3.5	4.5	3.6	(1.8)	(4.9)	-0.9
金利負担	1.6	4.2	1.5	(0.9)	(1.8)	-2.7
代金回収困難	0.8	0.8	0.0	(0.0)	(0.0)	-0.8
人材人手不足	22.4	27.9	25.5	(16.2)	(31.9)	-2.4
新商品開発技術	5.9	7.2	5.8	(11.7)	(1.8)	-1.4
資金繰り逼迫	1.6	3.4	2.9	(2.7)	(3.1)	-0.5
機械設備の老朽	12.6	14.0	14.6	(17.1)	(12.9)	0.6
環境公害問題	0.0	0.8	0.4	(0.9)	(0.0)	-0.4
その他	0.0	3.0	1.1	(0.0)	(1.8)	-1.9



- 今回の調査の全産業での当面の経営上の問題点をみると、①売上受注不振29.6%（前期比+0.9ポイント）、②人材人手不足25.5%（前期比▲2.4ポイント）③過当競争激化22.6%（前期比+3.7ポイント）の順になっている。
- 今回調査では、前期比最もポイントが高く変化したのは「過当競争激化」となった。また、減少したのは金利負担となっている。
- 問題点の「売上受注不振」が高い業種は、「高岡銅器」「木材業」となっている。「人材人手不足」は「医療福祉」「出版印刷紙加工」「運輸業」であった。今回、変動が大きかった「過当競争激化」を問題点とした業種は、「不動産業」「鋼材建材販売」「機械工具販売」「窯業土石」となっている。

X. 平成26年4月からの消費税引き上げの影響

		見込		予測 (%)	
項	目	27年1~3月	27年4~6月	27年7~9月	27年10~12月
売上高	好転	5.7	6.7	5.2	5.2
	悪化	14.9	12.4	7.1	7.9
	影響なし	79.4	80.9	83.7	86.9
仕入高	好転	3.5	2.3	2.3	1.9
	悪化	17.2	13.9	11.7	12.4
	影響なし	79.3	83.8	86.0	85.7
営業利益	好転	5.8	3.7	3.7	3.7
	悪化	17.7	13.5	9.0	9.4
	影響なし	76.5	82.8	87.3	86.9

- (1) 今回調査で、売上高へ影響があった企業は、回答企業の19.1%と前回よりやや減少した。回答企業では悪化したとの回答が多くなっている。
先行きについては、影響があるとの回答企業は減少している。
- (2) 仕入高への影響は、16.2%が影響ありと回答があった。
仕入高に影響がある企業も減少しており、先行きについても減少予想となっている。
- (3) 営業利益でも、影響ありと回答が減少している。
先行きについては、好転とする比率に変化はないが、悪化予想は減少してきている。
消費税8%への影響は、除々に少なくなっている。

総 評

I. 製造業

(織 維)

今回の調査では、業況は前期比悪化したとの回答となったが、先行きは改善予想となっている。問題点として「原材料高」とするポイントが高く、利益率が思わしくないとの声がある。

(医 薬 品)

今回の調査では、業況は前期比改善したが、まだ「悪い」との回答多かった。先行きについては、改善予想となっている。設備投資はやや減少してきており、薬価の引下げを懸念して、新しい設備投資を控えているようだ。

(機 械 工 業)

機械工業の業況判断指数は、前期比やや悪化となっている。先行きは、改善予想となっているが、大きく改善とはなっていない。

経営上の問題点として、「人材人手不足」「過当競争激化」が上がっている。

(電 子 部 品)

業況判断指数と売上高状況指数は、前期まで悪化傾向となっていたが、今回は前期比改善となった。先行きについては、やや悪化予想となっている。順調に推移していた業界も、中国の景気減速等の影響により、先行き不透明となってきている。

(プ ラ ス チ ッ ク)

業況判断指数は、前期とは反対に大幅に悪化となった。売上高についても同様に変化している。

内閣府の景気ウォッチャー調査では、「株高、賃金上昇により景気が良くなると見ていたが、あまり影響がなかった」との声があった。

(ア ル ミ 製 品)

当行調査の、業況判断指数は、悪化と改善が每期逆転している。今回は悪化となっている。

新設住宅着工戸数は前年比減少してきており、また、原材料価格も高値が続いている。

(木 材 業)

前期、80%が「減少」の回答で大幅悪化となっていた売上高状況は、改善となり、先行きも改善予想となっている。当面の経営上の問題点として、「売上受注不振」「原材料高」のポイントが高くなっている。

(木 工 ・ 建 具)

富山県内の木造住宅新設着工戸数は減少傾向であり、木材価格も高騰している。

木材業と同じ、項目が経営上の問題点として、高い。

II. 非製造業

(土 木)

北陸新幹線工事の終了後、公共工事請負金額は大幅に減少している。東日本建設業保証(株)によると、4～6月では前年度比40.9%減少となっている。当行調査では、業況判断指数は前期比悪化となった。先行きについても指数は横ばいであり、「悪い」とするポイントが高い。

(建 築 業)

富山県の平成27年1～7月の新設住宅着工戸数は、前年度比4.9%増加となっている。国内の新設住宅着工数は、消費税引上げ前には増加するが、全体として減少傾向となっている。

当行調査の業況判断指数では、前期比悪化となり、先行きも悪化予想となっている。

(自動車販売)

富山県の27年4～6月の新車販売台数(軽自動車を除く)では前年同期比増加となった。しかし、軽自動車は減少となっている。今回の調査では経営上の問題点として「過当競争激化」が高いポイントとなっている。

(運 送 業)

当行の調査では、業況判断指数、売上高状況は、前期比改善となった。北陸新幹線の開業により、タクシーや貸切バスの利用件数は増加している。

(宿 泊 業)

業況判断指数、売上高状況指数ともに、前期比大幅に改善となっている。先行きも改善予想となっている。

北陸新幹線開業に伴い、観光宿泊客は増加しており、先行きも期待される。

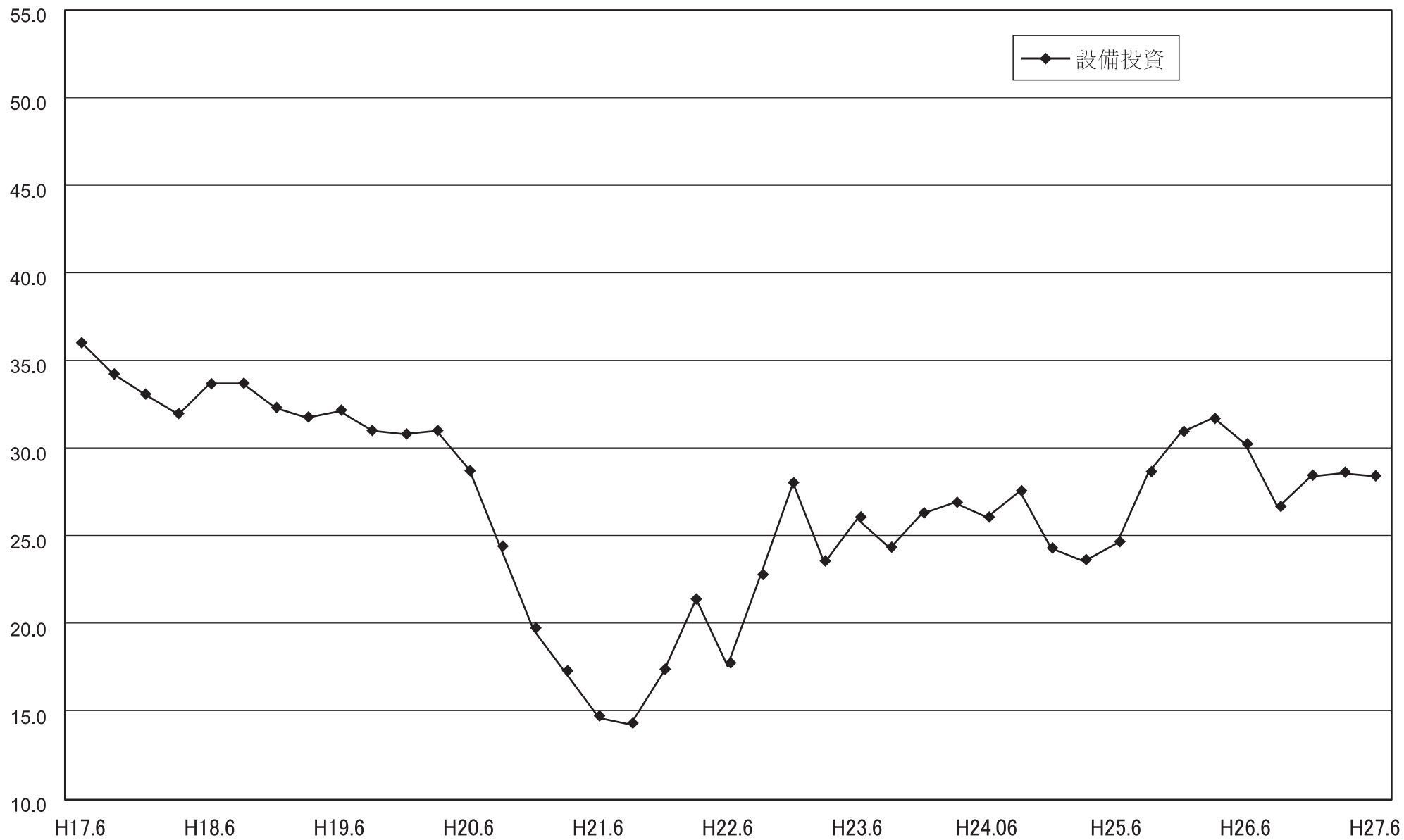
(百貨店・スーパー・小売)

27年4～6月期の売上高は前年同期比増加となった。前年度は消費税引上げ前の駆け込み需要の影響で減少していた。当行調査では、売上高状況は、前期比やや改善となるが「減少」とのポイントが多くなっている。

(医療福祉関連)

当行調査の売上高状況は每期悪化傾向となっている。経営上の問題点として、高い「人材人手不足」は、解消できず依然高いポイントとなっている。国や県では、対応策を計画しており、対応が期待される。

設備投資実施企業の割合



業況判断指数（D. I.）の推移

